

WEBGUARDIAN V3.7.00 リリースノート

WEBGUARDIAN V3.7.00 は、WEBGUARDIAN V3.6.00 for Linux『【GUARDIAN】アップデートモジュール 20130726』までの修正内容に加え、次の機能追加および修正／変更がなされました。

1. 機能追加

WEBGUARDIAN V3.7.00 (GUARDIANSUITE V4.6.00)へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

(1) Office2013 形式ファイルのフィルタリングに対応

Office2013 にて作成したファイルの検査(パスワード有無判定、キーワード検査、MIME タイプ検査、個人情報検査、ファイルタイプ検査)に対応しました。

(2) グループ複数指定機能の追加

従来のバージョンでは、[ウェブ]-[ポリシー設定]-[規制ルール]および[例外ルール]にて、設定できるグループは 1 件のみでしたが、本バージョンでは、グループの複数登録が可能になりました。

登録可能なグループ数に上限はありません。

※ただし、ルール 1 行の長さが 8191 文字を越えてしまった場合、そのルールの登録はできません。

(3) 利用者管理によるアカウントのパスワード変更機能の追加

利用者管理アカウントにより、情報管理者、部門情報管理者、システム管理者で登録されている各アカウントのパスワードを変更する機能が搭載されました。

利用者管理でログイン後、任意のアカウントを選択し、パスワードを変更できます。

(4) アカウント検索機能の追加

情報管理者、部門情報管理者、システム管理者で登録されているアカウント名および名前を検索する機能が搭載されました。

検索キーワードにヒットしたアカウントは一覧で表示され、検索結果からアカウントを選択することで、登録アカウントの編集や削除などの操作が可能です。

また、検索結果からアカウント名を選択し、アカウント編集画面の「一覧へ戻る」ボタンまたはアカウント削除画面の「一覧へ戻る」ボタンをクリックすると、検索後の画面へ戻る

ことができます。

(5) アカウント一覧画面の表示件数変更機能の追加

情報管理者、部門情報管理者、システム管理者の一覧画面について、1 ページあたりの表示アカウント件数を変更する機能が搭載されました。

各アカウントの管理画面にて、1 ページに表示するアカウント件数を設定し、[表示]ボタンをクリックすることで、設定された件数ごとに昇順にソートされた状態でアカウントを表示することができます。

2. 修正

WEBGUARDIAN V3.7.00 (GUARDIANSUITE V4.6.00) へのバージョンアップにおいて、以下の不具合を修正しました。

(1) 独自認証にてアップロード機能を使用し既存ユーザーの「名前」のみを変更すると初回ログインでない場合でもパスワード変更が求められる不具合

ユーザー認証設定画面のアップロード機能にて、登録済みの独自認証ユーザーに対し CSV ファイルの「名前」部だけを変更してアップロードを行うと、そのユーザーが初回パスワード変更済みであっても、再度ウェブアクセス時にパスワード変更通知画面が表示される不具合がありましたが、これを修正しました。

(2) 『【GUARDIAN】アップデートモジュール 20130517』適用後の環境にて、一度に大量の件数を処理できない不具合を修正

WEBGUARDIAN3.6 に『【GUARDIAN】アップデートモジュール 20130517』を適用済みの環境にて、以下の対象画面より、一度に大量の件数を処理(例えばプロキシ設定にて 1000 件以上のアクセス許可ホスト登録)しようとするエラーとなる不具合がありましたが、これを修正しました。

＜対象画面＞

- ・[共通]-[管理サーバー管理]-[拡張機能]-[スケジューラー]-[ウェブグループ更新]
- ・[共通]-[検査サーバー管理]-[ウェブ]-[プロキシ設定]
- ・[ウェブ]-[ポリシー設定]-[規制ルール]
- ・[ウェブ]-[ポリシー設定]-[例外ルール]
- ・[共通]-[利用者管理]-[情報管理者]-[LDAP インポート]
- ・[共通]-[利用者管理]-[部門情報管理者]-[LDAP インポート]
- ・[共通]-[利用者管理]-[システム管理者]-[LDAP インポート]

(3) 閲覧権限のみ付与された管理者でプロキシ設定画面を表示すると設定の一部が表示されない不具合

情報管理者/システム管理者のアカウントにて、「共通 オペレーション権限リスト」の「ウェブ検査サーバー設定」が「閲覧」となっている場合、[共通]-[検査サーバー管理]-[参照]-[プロキシ設定]の「SSL 接続許可ポート」が表示されない不具合がありましたが、これを修正しました。

(4) グループ編集画面にあるユーザー選択の操作をするとシステムログに警告が表示される不具合

グループ編集画面にて、[ユーザー選択]ボタンのクリック、認証名一覧画面上にある[決定]ボタンのクリック、または、ユーザー検索リンクをクリックすると、管理サーバーのシステムログに警告ログが表示される不具合がありましたが、これを修正しました。

(5) セキュリティの強化

製品のセキュリティを強化しました。

3. 変更

WEBGUARDIAN V3.7.00 (GUARDIANSUITE V4.6.00)へのバージョンアップにおいて、以下の仕様を変更しました。

(1) 上位プロキシリストおよび上位プロキシURL リストの最大登録件数変更

[共通]-[検査サーバー管理]-[個別設定]-[プロキシ設定]-[上位プロキシ設定]にて登録できる「上位プロキシリスト」「上位プロキシURL リスト」の最大登録件数を変更しました。

変更前:

上位プロキシリスト	20 件
上位プロキシURL リスト	20 件

変更後:

上位プロキシリスト	100 件
上位プロキシURL リスト	4000 件

(2) LDAP 連携におけるリファラル参照設定の管理画面表示

従来のバージョンでは、設定ファイルを編集し、LDAP_opt_referrals もしくは WGAAuthLDAPReferrals パラメータの設定を変更することでリファラル参照のオン、オフを切り替えていました。本バージョンでは、以下の対象画面にて、「リファラル参照」のオン、オフを切り替えるよう変更しました。

＜対象画面＞

- ・[共通]-[管理サーバー管理]-[基本設定]-[管理サーバーパラメータ]-LDAP サーバー設定
- ・[ウェブ]-[システム管理]-[ユーザー認証設定]-LDAP 認証設定

(3) アカウント名の使用可能文字の変更

アカウント名に「-」と「.」が使用できるよう変更しました。

「-」、「.」は、アカウント名の先頭と末尾を除く位置に使用できます。

4. システム要件

WEBGUARDIAN V3.7.00 を利用するには、以下の要件を満たしたハードウェア／ソフトウェアが必要となります。

【サーバ条件】

OS	RedHat Enterprise Linux Version 5 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 ed、tcl、compat-db(32bit)、compat-libstdc++-33(32bit)、 mt-st、libstdc++-devel RedHat Enterprise Linux Version 6 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 compat-db(32bit)、compat-expat1(32bit)、 compat-libstdc++-33(32bit)、cyrus-sasl-lib(32bit)、 libuuid(32bit)、mt-st、ncurses-libs(32bit)、tcl
CPU	上記 OS が動作する IA-32 (Pentium 以上)、Intel64 プロセッサ (Itanium2 は非対応)
ディスク容量	管理サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:1GB 検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB 管理サーバー＋検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB ※システム稼動後は各種データが出力／保管されますので、運用を考慮した空き容量を用意してください。

【管理用クライアント条件】

OS	Windows XP SP3、Windows Vista SP2、 Windows 7 SP1、Windows 8
ウェブブラウザ	上記 OS で稼働している Internet Explorer 7.0、8.0、9.0、 10.0
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

以上